煤掃

萩原朔太郎

青空文庫

井桁古びた天井に
鼠の夢を驚かして
今朝年越しの煤拂ひ、
主人七兵衛いそいそと
店の小者を引具して
事に堪ふべく見えにけり。

さて若衆のいでたちや
奴冠りに筒袖の
半纏すがた意氣なるに
帶ぶや棕梠の木竹箒、
事あり顔に見交して
物物しくも構へたり。

お花、梅吉、喜三郎
ことし十五の小性とて
娘お蝶がませぶりを
さげすみしたる様もなく
家代代の重寶を
そつと小縁に運ぶ哉。

要所、要所の手くばりも
あらましここにすみぬれば
手代が下知の一聲に
家臺(やたい)をゆする物音や
たまたま晝の閑寂に
庭の椿の落つる頃。

木遣男(きやりをとこ)の勇者等も
仕事師ばらの援軍も
いま力戰の眞最中(まもなか)や
たち上りたる、もうぢんの
中に交りて一しきり
陣鼓ときめく凄まじさ。

煤の埃の中にして
捨松ここに思ふ様
老店(しにせ)の主人三代の
暖簾(のれん)をくぐる町人は
幾度同じ夢を見て
繰り返したる榮落に
街の繁華は見たるなり。

耳を聾する亂調に
入興ありたる擧動(ふるまひ)や
お竹つらつら思ふ様
こは夕暮を酒にして
主人(あるじ)の笑を見んと也
忠義ぶりなる店の子が

賢かりける可笑しさよ。

一重筵の上にして
蒔繪の盆や草雙紙
さては廚の煤鍋が
入り亂れたる狂態を
水干やれし古雛の
こは狼藉ととがめずや。

庭狹きまでに散り亂れ
さしも竝びし家財等の
一つ一つに處えて
二度もとの店の中
帳場格子の間より
手習雙紙見る頃を。

宵の酒宴（うたげ）の可笑しさよ
娘が運ぶ瓶子より
もるる灯影（ほかげ）にかしこまる
左右（さう）の破顔を反り見て
七兵衛獨り忻忻たり。

青空文庫情報

底本：「萩原朔太郎全集　第三巻」筑摩書房
　　1977（昭和52）年5月30日初版第1刷発行
　　1986（昭和62）年12月10日補訂版第1刷発行
入力：kompass
校正：小林繁雄
2011年6月25日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

煤掃

萩原朔太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/